**「ラーマクリシュナの福音」勉強会　第１２回　（２０１５年１月２０日）**

**・第１２回の勉強範囲：「第二版の出版のことばと序文」(11)頁**

・📖 p(10)　**シュリー・ラーマクリシュナのメッセージの特徴**

・📖（p(11)つづきを読む）それは個々人に即したものでありながら、同時に**普遍的**で、調和に満ち、簡潔にして深淵なメッセージである。

（解説）

**シュリー・ラーマクリシュナの教えがUniversal普遍的**であるとは？

（解説その１）

キリスト教会のある宗派や、厳格なイスラム教には、以下の様な考えがあります。

・キリスト教徒はイエスを尊敬し、イエスの信者にならなければならない。

・イスラム教徒はモハンマド、コーランを尊敬しなければならない。

これが絶対の条件だとすると、「キリスト教を実践したいなら、イエスとバイブル“だけ”」「イスラム教を実践したいなら、モハンマドとコーラン“だけ”尊敬しなさい」となります。

ヒンドゥ教徒の私がキリスト教を実践するには、信じる神様や聖典を捨てて、イエスだけを尊敬しないと、実践できません。これはUniversal普遍的ではないでしょう？　Universalとは何か？

**・イエスを尊敬していても、ヒンドゥ教を実践してかまわない。**

**・自分の神様を尊敬するヒンドゥ教徒でも、イエスを尊敬し、バイブルを読み、モハンマドを尊敬し、コーランを読むことはかまわない。**

**これがuniversalです。「すべての人のために、その宗教の中に実践のスペースがある」。**そのことを考えれば、**シュリー・ラーマクリシュナのメッセージは普遍的**ではないですか？

（解説その２）

　また、

・ある宗教はお坊さん“だけ”のためのもの。

・ある宗教は家住者“だけ”のためのもの。

これもuniversal普遍的とは言えません。

伝統的イスラム教には、「家族を放棄して“お坊さん”になる」というアイデアはまったく無い。イスラム教徒は、イスラム教の実践のため、絶対に結婚しないといけません。イスラム教の一宗派、スーフィー教にはすべてを放棄した有名な聖者もいるが、しかし、伝統的なイスラム教の考えでは、スーフィーはイスラム教ではないとさえ言っています。

一方、仏教の教義が強調するのは「放棄」です。「放棄して僧院にはいってください」。お釈迦様はもちろん、お釈迦様の息子、奥さん、お母さん、みな出家しました。伝統的仏教の強調は放棄です。今の日本では全く反対のようですけれども、その教義は、ほとんどお坊さんのためのものでした。

それもuniversal普遍的ではない。スワーミー・ヴィヴェーカーナンダはそれについて批判したことがありました。準備が整っていない人がお坊さんになっても、進むことはできない、やがて矛盾があらわれます、と。

　Universalとは何か？

**（内と外両方の）放棄をする人のためだけでなく、家住者のためにも、シュリー・ラーマクリシュナは多くの助言をしています**。普遍的ではないですか？

（解説その３）

　また、

・キリスト教が強調するのはdevotion（献身）。バクティ・ヨーガです。

・仏教が強調するのは知識と瞑想。ギヤーナ・ヨーガと瞑想のヨーガです。

キリスト教の最大の強調は、バクティ、神様に対する愛と祈りです。ギャーナ・ヨーガと瞑想のヨーガはあまりない。イエスの教えにはあるのですが、現在の教会は献身を強調しています。ある時代、キリスト教徒の中にギャーナ・ヨーガが好きな人もいたけれども、教会はその実践を許さず、彼らを排斥しました。

一方、仏教の教えの中に、ギャーナ・ヨーガと瞑想は多くありますが、その中にバクティはありません。神様を信じていません。のちになって、バクティのアイデアも入ってきましたが、伝統的仏教や、今でもヒマラヤやセイロンの仏教、ビルマの仏教では神様を信じていません。神様の礼拝もしていません。

　Universalとは何か？

**ある宗教の中に全部あります──バクティ・ヨーガ、カルマ・ヨーガ、ギヤーナ・ヨーガ、瞑想のヨーガもあります**。それはuniversal普遍的ではないですか？　普遍的です**。シュリー・ラーマクリシュナのメッセージはそれ**です。

**シュリー・ラーマクリシュナの教えは、お坊さんのためだけでなく、家住者のためだけでなく、バクティ・ヨーガだけではなく、カルマ、ギヤーナ、瞑想だけでなく、**

（解説その４）

**女性、男性、すべての職業、お年寄り、若い、子供、すべて、ヒンドゥ教の宗派、ヒンドゥ教だけではなく、キリスト教徒、イスラム教徒もシュリー・ラーマクリシュナの近くに行って勉強しました**。そのことを考えれば、**シュリー・ラーマクリシュナはとても普遍的**でした。

**そのように普遍的であったから、**

**・すべての人に、シュリー・ラーマクリシュナは同一していました。**

**・すべての人が、シュリー・ラーマクリシュナに同一しました。**

ヴィシュヌを尊敬するヴィシュヌ派（ヴァイシュナヴァ）も、マザー・カーリー（シャクティ）を尊敬するシャクタも、ヴェーダーンタの信奉者も、ブラフマー（有形の神を信じていない人たち）も、それぞれが、“シュリー・ラーマクリシュナは我々のグループの人です”と感じていました。**そのようにシュリー・ラーマクリシュナを同一identificationしていました。シュリー・ラーマクリシュナも皆さんを同一していました。**

**なぜそれが出来たのか？　なぜなら、シュリー・ラーマクリシュナは普遍的でしたから。**

**布を染めるの例**を知っていますか？（👉『福音p542、268）

ある人が染料のを持っていました。

その人はたずねます、「あなたは何色が好きですか？」。赤色と聞いて、ＯＫと言って布を桶に入れ赤く染めました。別の人に「何色が好き？」とたずねて「緑」と聞くと、ＯＫと言って同じ桶に入れて緑に染めました。また「何色が好き？」と別の人に聞いて「黄色」というので同じ桶で今度は黄色に染めました。（笑い）同じ桶に白い布を入れて、それぞれの人が好きな色に染めました。なぜそれが出来たのでしょう？──**普遍的でしたから！**

まだ話は続きます。そのとき、その様子を見ていた別の人が桶の持ち主に言いました、「私はどの色も特別好きではない。ですから、私の布をあなたの染め色に染めてください」─**─”Dye my cloth the color of your dye-stuff”・・・とても美しいコメント。**

**その色はなに？──Universal color！**

ほとんどの宗教は、ひとつの色だけ持っています。赤なら赤だけ。黄色なら黄色だけ。白なら白だけ。

**しかしシュリー・ラーマクリシュナは、特別な染色桶のひと、universal color、そのように普遍的な色のひとでしたから、どんなお客様でもその人の好きな色に染めることができました。どんなお客様も好き。どんなお客様も助けることができます。**

**とてもビューティフル。ふつうではできない。特別でした。**

・📖（p(11)ふたたび読む）それは個々人に即したものでありながら、同時に普遍的で、**調和に満ち**、簡潔にして深淵なメッセージである。

（解説）

**Harmony調和**のイメージはなんでしょう？

（参加者）「平和」「争いがない」

人間関係でイメージすると「調和」とは？

（参加者）「受け入れる」？「気が合う」？「ウマが合う」？

そうですね。「合わない」は、I don’t feel free with him. I don’t get along with him. のイメージです。

シュリー・ラーマクリシュナは、**fine with everyone.**　みなさんと合いました。これがハーモニーのひとつの意味です。

でもこれだけではない。

Harmony調和のイメージに、さまざまなものがひとつになる、というのもあります。さまざまなものを混ぜて（ミックスして；ブレンドして）ひとつになる。さて、**そのハーモニーのアイデアは良いが、問題は、自分の特徴がなくなることです。ほかの人と調和したいなら、自分の特徴がなくなります。これは肯定的なハーモニーではない。否定的なハーモニー**です。

ちょっと考えてみましょう。

ひとつのハーモニーのやり方は、「皆さん、自分の宗教を捨てて、（たとえば）キリスト教になってください」というもの。そのやり方でも調和はできます。それもハーモニーです。

しかしそのやり方には問題があります。それぞれの宗教の特徴がなくなります。

それぞれの宗教の中に、それぞれの肯定的な特徴があり、それぞれの宗教の中に、真理があります。すべての真理がキリスト教の中に“だけ”あるのではない。他の宗教の中にも真理がある。

自分の特徴をすべて捨てて、ひとつのパターンだけ、一つの特徴だけになると、もちろんハーモニーはできますが、自分の良い特徴もなくなります。みな、違いはなくなりますが、自分の良い特徴もなくなります。否定的なハーモニーの問題がそれです。

おもしろいのは、あるイスラム教、あるキリスト教は、そのたぐいのハーモニーが希望だということです。「皆さん、キリスト教徒になってください。そうすれば、宗教と宗教のたたかいもなくなります」と言っている。

宗教と宗教のたたかいの問題は、大きな問題です。

この問題の解決は、「宗教などなくなったほうがよい」というのと、「ひとつの宗教だけにしたほうがよい」というのがある。しかしヒンドゥ教徒はまったくそのようには考えない。

宗教が、たった一種類になれば、もちろん宗教間のたたかいはなくなります。しかし、ほかの宗教の素晴らしい特徴もなくなる。それに、ひとつの宗教の実践だけを行えといわれても、自分の宗教を捨てろといわれても、信者にはそれを決めることはできないでしょう？それに、私たちの宗教になってください、いや、私たちの宗教になってくださいとなると、また、たたかいが始まります。それだけではない。各宗教の中にまた、宗派がたくさんありますから、ひとつの宗教になったとしても、問題はなくなりません。最終的には、ある宗教のある宗派だけに、全員がならなくてはいけない。それはできますか？　できないです。それはまったく現実的ではない。

**ひとつの宗教だけが素晴らしいのではない。すべての宗教の中には共通する、素晴らしい特徴がある。**

**・らかになってください。**

**・神様を信じてください。永遠の存在を信じてください。**

**・皆さんを愛してください。**

**・皆さんのお世話をしてください。**

**これらは、すべての宗教に共通する助言ではないですか？　これらをもし、強調するならハーモニーはできます。ハーモニーとはこのアイデアです。「自分とみな、同じことを考えている。その考えを強調する」──それが調和のやり方です。自分と他者の考えが別々なことを「私はそれを考えません。気にしません」それがハーモニー。**

**肯定的なハーモニーのもうひとつの意味は、「あなたの宗教の中に素晴らしいものがある。私はそれを勉強したいです」そして「私の宗教の中にも素晴らしいものがある。あなたも勉強してください」**──これはハーモニーのとても肯定的な考えです。**自分の宗教をやめないで、あなたの素晴らしいことを勉強したい。その態度こそ、本当に肯定的なハーモニー**です。

わかりました？　**肯定的なハーモニーについて、ふたつ。ひとつは、共通する同じ考えを強調するこというやり方。もうひとつは、ほかの宗教の素晴らしいものを勉強するという態度。シュリー・ラーマクリシュナのハーモニーはそれ**でした。

シュリー・ラーマクリシュナの教えは、「その宗教素晴らしい、別の宗教も素晴らしい、別の実践も素晴らしい」です。「１００％ダメ」もないし、「１００％正しい」もない。

**シュリー・ラーマクリシュナが言うのは、「誰の時計も正しくないのに、みなが、『私の時計“だけ”が正しい』と考えている」**。ヒンドゥ教徒のシュリー・ラーマクリシュナが言っているのです、ヒンドゥ教の時計も１００％は正しくない、と。それは、**ヒンドゥ教だけではなく、ほかの宗教にも素晴らしいものがある**、ということです。シュリー・ラーマクリシュナのハーモニーはそれです。その種類のハーモニーが、本当に**肯定的なハーモニー**です。

　たとえば、シュリー・ラーマクリシュナは、イスラム教の、何が素晴らしいと言っていましたか？　イスラム教徒は日に５回祈るのを知っていますか？　どこにいても、仕事の最中でも仕事を中断して、祈ります。今では、駅や飛行場に、祈りのための部屋が設置されていますが、イスラム教徒のその実践の態度は素晴らしいと、シュリー・ラーマクリシュナはとてもほめていました。「イスラム教徒はそれを実践していますから、あなたもそうしてください。イスラム教徒から学んでください」このような考え方は、ハーモニー調和そのものです。

・📖（p(11)ふたたび読む）それは個々人に即したものでありながら、同時に普遍的で、調和に満ち、**簡潔にして深淵な**メッセージである。

（解説）

「簡潔にして深淵な」**Simple but profound**──『シュリー・ラーマクリシュナの福音』には、簡単でわかりやすいけれども、深い、テーマの例や物語がたくさんあります。

詩人も詩をつくるとき例を使うでしょう？　小説家、脚本家もそうですね。シュリー・ラーマクリシュナの例と、それらの例は何が違うか、わかりますか？

（参加者）シュリー・ラーマクリシュナは、わかりやすい。

ＯＫ。もうひとつは？

（参加者）身近なものが例。

そうです。たとえば詩人は、さまざまなものをもとに自分で想像して作ることが多い。**シュリー・ラーマクリシュナのたとえの、９９％は、毎日の生活で我々がいつも見ているもの、さわっているもの、経験をたくさんしているものです。だから我々が想像する必要がありません。だからとてもわかりやすい。**

身近なものを例に使ったシュリー・ラーマクリシュナの話を紹介しましょう。

＜**水に浮かぶ舟の例**＞

家住者は、世俗の水に浮かぶ舟のようです。家住者の中に、世俗の水がなければ、舟は沈みません。が家住者の中に、世俗的なものが入ると、沈没します。それは堕落を意味します。

＜**の葉の例**＞

蓮の葉には油のような成分があり、葉っぱに水が落ちても、濡れることはありません。世俗に住む家住者も、世俗とつながりがなければ、蓮の葉のようにそこに何もない。何も影響がない。仕事の関係で、世俗的な場所に行くことがあっても、場所から離れれば、なんの影響もない。一方、世俗に執着があるひとは、そこから離れても、その影響がずっと続いています。

とてもわかりやすい例ではないですか？

＜**ジャック・フルーツの例**＞

ジャック・フルーツは、インドでポピュラーな果物です。割ると、ベタベタしています。だからベタベタを防ぐために、手に油をぬります。その油はなんですか？　無執着、ノン・アタッチメントの油。世俗的な場所にいっても、まったくかまいません。無執着の油を塗っているのですから。

＜**歯痛の例**＞

仕事のときに神様のことを思い続けるのは難しいと、皆さん考えています。今度はその例。覚えていますか？

　たとえば歯痛のとき。仕事はしていますが、心の一部分は歯が痛いといつも思っています。その経験、ありませんか？

（参加者）あります。

そう、とても日常的な例ですね。そのとき歯が痛いからと、仕事をやめましたか？（笑い）

（参加者）やめないです。（笑い）

みんな仕事を続けています。痛くてもやめない。しかし心の一部分は、いつも、痛い、痛い・・・。さて、それができるのに、仕事しながら神様のことを考えること、どうして出来ませんか？　痛い、痛いも考えでしょ？　それをチェンジして、歯痛のことではなく、神様のことを考えてください。

以上の例のように、**シュリー・ラーマクリシュナのたとえはとても実践的practical で、日常的commonで、誰もがすぐに理解できる例でした。それを理解するのに、聖典の勉強も、特別な知識もいりません。**

詩を理解するために、ときどき、インテリジェンス・知性が必要でしょう？　それに知性だけでなく、ときどき想像力も必要です。

シュリー・ラーマクリシュナの例を理解するのに、何も必要ではない。そしてとてもわかりやすい。

**ですけれども、教えは深いです。そうではないですか？　ノン・アタッチメント無執着、それが教え。それは難しいことではないですか？　簡単な例をつかって教えは深かった。**

ＯＫ。今日はこれだけ。ほかの例をもっと聞きたいですか？

（参加者）はい！

**話のテーマは、あるときは生活、あるときは放棄、あるときはブラフマンについてでした。しかしそれらの深いテーマを、シュリー・ラーマクリシュナは、いつも、日常生活からわかりやすい例をひいて、話しました。これがシュリー・ラーマクリシュナの教えの特徴です。**

（『福音』勉強会第１２回、以上）